

「これって 暴力? 愛?」デートDVってなに?

DV（ドメスティック・バイオレンス）は、配偶者やパートナーなど親しい間柄でおこる暴力の事です。交際中の男女間でおこる暴力をデートDVと言います。暴力は犯罪です。

こんな事はありませんか

- 「なぐる、ける」
- 「携帯電話をチェックする」
- 「お金を返さない、取り上げる」
- 「キスなどを強要する」

デートDVってなぜおこる?

デートDVは、相手を自分の思い通りにしようと暴力で支配することによりおこります。対等な関係

とするケンカとは違います。

「束縛することが愛」「愛しているから暴力をふるってもいい」と間違った思い込みをしていませんか。これってデートDV? 相手との関係がちょっとおかしいな? と思ったら信頼できる人や相談機関に相談しましょう。

相談は無料です。

群馬県女性相談センター

☎027-261-4466

女性の人権ホットライン

☎0570-070-810

群馬県性暴力被害者サポートセンター Saveぐんま

☎027-329-6125

「女子大のとびら」

群馬県立女子大学 ☎65-8511

子どもたちと学生の出逢い

本学には、毎年全国から多くの学生が入学してきます。アジアを中心に留学生も受け入れています。玉村で生まれ育った学生もいます。子どもの頃から大学祭を楽しんだり、オープンキャンパス時に親しみを感じてくれたのかもしれない。先の例のほかにも本学では、県民公開講座、群馬学シンポジウムなども含め、地域社会における文化の進展にも力を注いでいます。

私が所属する美学美術史学科でも、多くの地域連携をすすめてきました。玉村町を例にあげれば、「玉村豊男氏による学内での講演、展覧会開催」「たまむらカレー王決定戦」「道の駅玉村宿トイレ棟の外壁デザイン」など、ご年配の方から小さな子どもまで、幅広い年齢層とかかわりをもっています。今回は、玉村第2保育所との地域連携を紹介します。

「絵画4」の授業の中で、2009年から続いている連携です。履修している学生が、保育所の年長（5、6歳）の子どもたちとワークショップを行っています。どんなことをすれば子どもたちが喜んでくれるか、記憶に残る時間をつくれるか、企画立案、試行と、保育所の先生たちと相談しながら進めます。今まで描いたことがない大きな紙に、ホウキや雑巾、ボール、足で描いたり、着せ替え感覚で将来の自分を考えたり、光の綺麗さをともなう感覚的な作品を制作

文学部 美学美術史学科・芸術学専攻 教授 山崎 真一
したりと、毎年、違うアイデアが出されます。学生にとっては、個々の作品制作とは違い、共同でアイデアを捻出することの難しさや、何ができ、何ができないのかを確認する好機です。そのことが、相手について考えることにもつながります。子どものダイレクトな反応が喜びになり、見えなかったものが見えるという貴重な経験になっています。

始めてから今年で9年が経ちました。今後、ワークショップを経験した子どもが、本学に入学してくるかもしれません。そんな密かな楽しみを胸に、これからも地域貢献を含め、文化の進展に貢献できればと考えています。

